

# 草原

あなたの瞳のなかには、

三つの青い星がある。

ひとつは潔癖であり、もうひとつは淫蕩であり、

さらにもうひとつは使命である。

いんとう



1999年 毎日新聞社

## 「Story

以前一人旅で訪れたパキスタン・フンザで出逢った老人に、自らが持つ「三つの青い星」について教えられた遠間憲太郎は、カメラ機器メーカーの営業部で局長として働く50歳。取引先の社長である富樫重蔵とひよんなことから親友の契りを交わす。日本という国に怒りと絶望感を抱きながら、これからの人生をどう進むべきなのか模索する二人。長い時間をかけて自分の中に培われたさまざまなものを一度リセットするべく、彼らはタクラマカン砂漠とパキスタン・フンザへの旅を決意するのだった。

【毎日新聞 1997年12月～1998年12月連載】

## 宮本輝氏が50歳の時に執筆していた作品

本作に登場する主人公 遠間憲太郎と富樫重蔵はともに50歳で、執筆当時の宮本輝氏と同一年である。同時期に宮本輝氏が執筆していた他の作品には、「月光の東」（中央公論社、1998年刊）「睡蓮の長いまどろみ」（文藝春秋、2000年刊）「森のなかの海」（光文社、2001年刊）等が挙げられる。連載を開始する1997年の2年前、1995年には阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件などが起こっている。こうした時代の社会的背景を踏まえて読むと、作品の中に込められた作者の想いをより一層感じることができるだろう。



自分とはなぜ生まれてきたのか

主人公の憲太郎は、何気ない生活の中で「使命」に出逢います。

よほど自分の使命とは何なのか。

言葉が尽きたあと、普段はあまりじっくり考えることのない自分の人生と向き合ってみたくなる作品です。

Review